
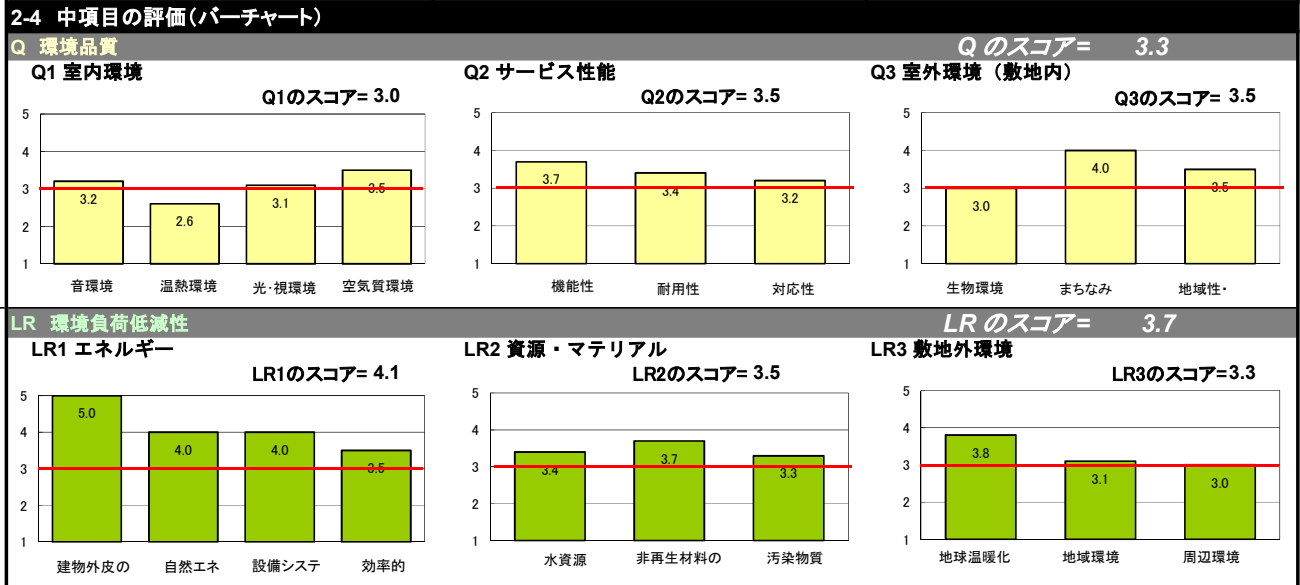
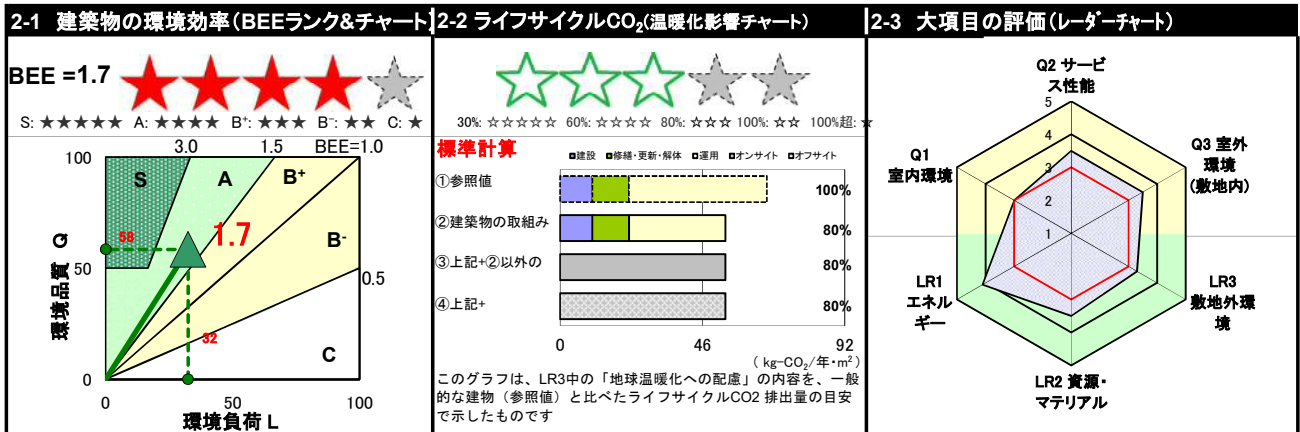


CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本赤十字看護大学さいたま看護学	階数	地上4F
建設地	埼玉県さいたま市	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、防火地域指定なし	平均居住人員	360人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年3月1日
敷地面積	2,739 m ²	作成者	新井 敏裕
建築面積	1,453 m ²	確認日	2018年3月8日
延床面積	5,429 m ²	確認者	新井 敏裕

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
多様なコミュニケーションが生まれ、地域連携の拠点となる、質の高い高等教育を養える校舎づくりを目指した。構造計画においては耐久性に配慮するとともに、設備計画においてはクールウォームピットや自然換気など省エネ性に配慮した機能を有し、高効率型エアコンやLED照明などを採用することにより、環境性に配慮した計画としている。		
Q1 室内環境 ・館内は全館禁煙としている。 ・F☆☆☆☆の建材を、全面的に採用している。	Q2 サービス性能 ・耐久性において、重要度係数1.25を考慮した設計としている。 ・主要配管材において、耐久性の高い種類を使用すると共に、配管の支持については耐震クラスAとしている。	Q3 室外環境 (敷地内) ・敷地内の暑熱環境を緩和するため、積極的に緑化に努めた。
LR1 エネルギー ・建物配置、外壁・窓の断熱性に配慮し、外皮の熱負荷抑制に配慮している。 ・ラウンジなどの共用部はクールウォームピットを介し外気を導入することで、外気負荷を抑制している。	LR2 資源・マテリアル ・節水型器具や擬音装置を設けることで、節水に配慮した。	LR3 敷地外環境 ・オープンスペースを設け、積極的に緑化することで、敷地外環境に配慮した。 ・本計画は開発行為に該当しないが、自主的に雨水浸透柵の設置を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される